



延年半夏湯 (えんねんはんげとう)

【処方コンセプト】肩こりがあるって、胃が痛む方に。

慢性の胃障害があり、左季肋下部あるいは左乳房下部に疼痛を訴え、左の肩背にかけて凝り痛むものに用いる。現代においては、このようなタイプの胃痛や肩こりに応用されている。

延年半夏湯に関しては、細野史郎先生の研究により、現代風の証（あるいは投与目標）を日本東洋医学会誌に掲載されているので、それを引用させていただくと、

◆慢性の胃障害：胃症状が自覚症状かあるいは他覚症状として証明される。

◆立位時の心窩部圧痛：立った姿勢で剣状突起下部（胸骨の下端に突出する軟骨）に鋭い圧痛点がある。



◆左肩のこり、左背のこりと圧痛：左が痛むのは胃が悪い時に起きることが多い。右は主に肝臓や胆のうの炎症によるもの。

◆足冷え（膝から下、あるいは足首より先）：特に足首が冷える。患者本人に足冷えの自覚がなくても、両足首を握ってみると実に冷たく感じる。

◆左腹筋の緊張：古典においては、痙癖（げんぺき）の主方となっている。痙癖とは、左上腹部にずっとしりしたしこり（かたまり）を認めるもの。

【処方構成】9味

枳実（キジツ）、柴胡（サイコ）、檳榔子（ビンロウジ）、土鼈甲（ドベッコウ）はいずれも余分な水分を去り、気をめぐらし、痞えや張りを治す。半夏（ハンゲ）は胃内の水分を去り、桔梗（キキョウ）は胸中の痰を除き、呉茱萸（ゴシュユ）はお腹を温め、疝痛を治す。このように構成生薬の大部分が、気をめぐらし、余分な水分を除き、痞えを治すものである。胃内および胸膈に停滞した水毒、ガスなどによって、凝結・緊張・疼痛を起こしたものを消散させると考えられる。

サイコ	疏肝解鬱	ニンジン	補気健脾	ゴシュユ	温裏祛寒
キジツ	理気化痰	ショウキョウ	制吐鎮嘔		
ビンロウジ		ハンゲ			
キキョウ					
ドベッコウ	清熱滋陰				

	解表		清熱			補養					理気	去痰		配合生薬数			
	柴胡	桂皮	生姜	黄連	黄芩	大黃	人參	甘草	大棗	芍薬	土鼈甲	檳榔子	枳実		半夏	桔梗	呉茱萸
延年半夏湯	○		○				○				○	○	○	○	○	○	9

大柴胡湯	○	○	○	○		○	○		○	○			8
柴胡桂枝湯	○	○	○	○		○	○	○	○			○	9
半夏瀉心湯			乾 姜	○	○	○	○	○				○	7

処方名	類方鑑別
延年半夏湯	肩こりがある、胃が痛む方に。肩こりのほか左側に症状が出やすく、足首の冷えなども。
大柴胡湯	イライラが激しく、胃がはってかたい方で便秘する。肩がこりやすく、締め付けられることを嫌う。
柴胡桂枝湯	イライラして疲れやすい方の胃痛、腹痛に。
半夏瀉心湯	口臭が気になり、お腹がゴロゴロなる方。